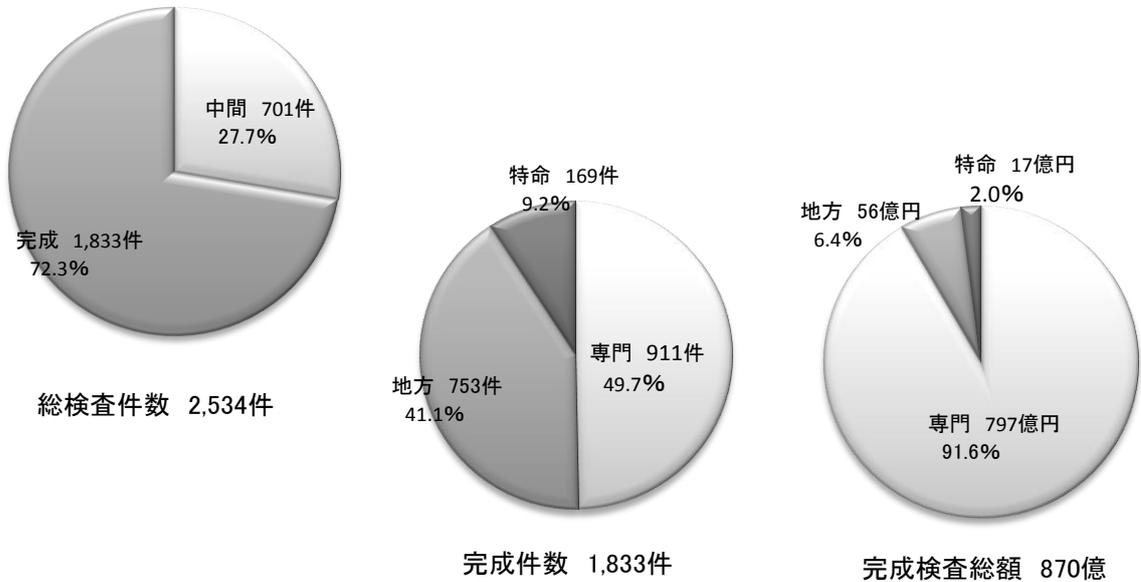


平成23年度の工事検査実績をとりまとめた結果は次のとおりです。  
 データ集計期間は、平成23年4月1日から平成24年3月31日までです。

## 1 実績／全体

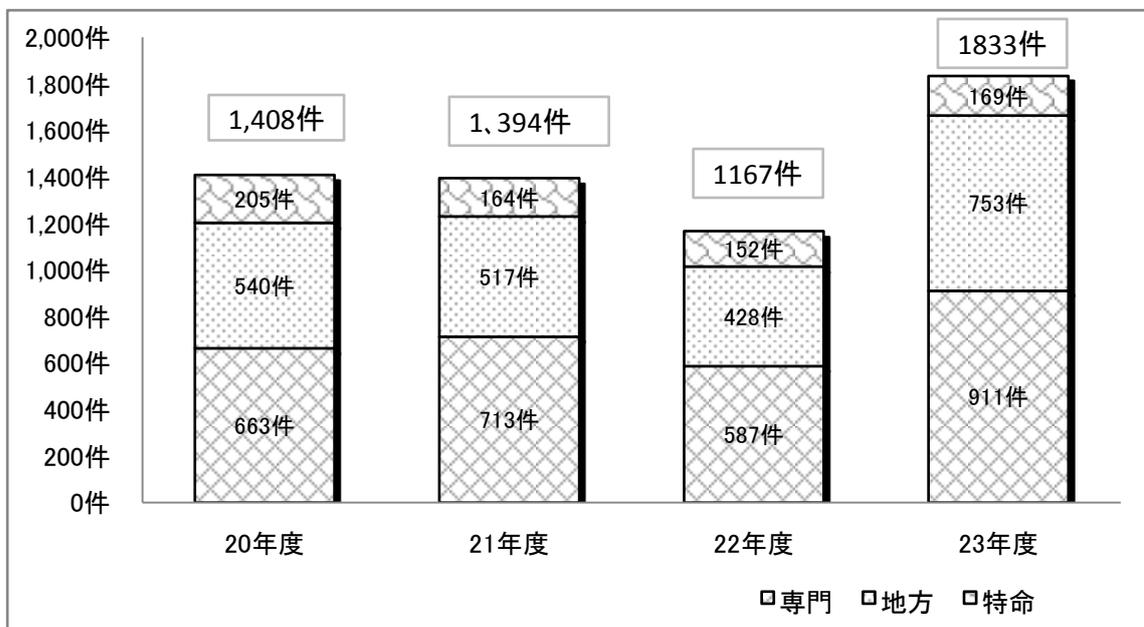
### ① 検査件数／完成／中間



◇平成23年度の総検査件数（専門・地方・特命検査員検査合計）は、2,534件でした。  
 総検査件数に占める割合は、完成検査が約72%、中間検査が約28%となっています。  
 また、完成検査件数に占める専門検査員検査は約50%、検査金額に占める割合は約92%となっています。

0

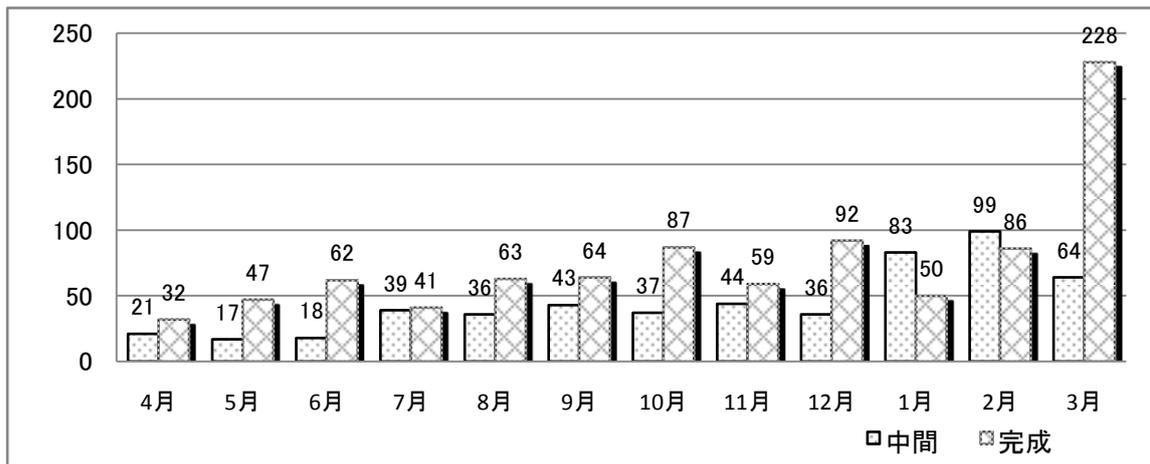
### ② 検査件数／完成／推移



◇完成検査の件数は全体で1,833件であり、前年度の約157%となっています。  
**専門検査員**は、検査課に所属し、主として契約額が2,000万円以上の発注工事を検査。  
**地方検査員**は、県工事検査規定で定められた地方機関に配属され、契約額が2,000万円未満の当該機関発注工事を検査。  
**特命検査員**は、主務課長又は所長に別に職員のうちから任命され、県工事検査執行要領の範囲内の工事を検査。

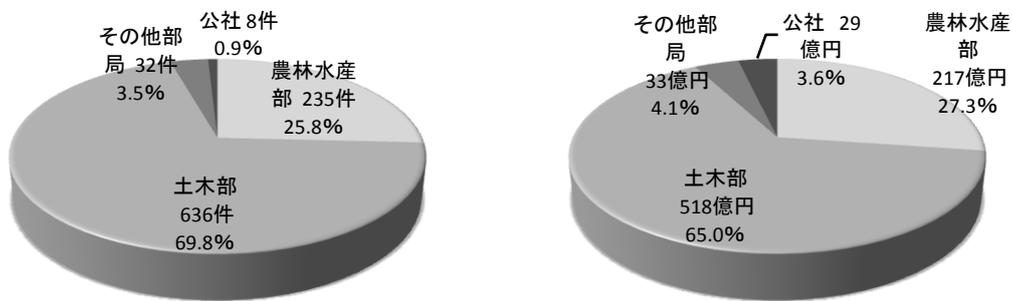
## 2 実績／専門検査員

### ① 検査件数／月別



◇平成23年3月11日の東日本大震災発生により、通常工事の一時中止をかけたことも影響し、上半期の検査件数が通年より減少し、また、震災のがれき撤去や緊急応急工事及び災害復旧工事の大幅な増加により年度末3月の完成検査件数が圧倒的に多くなりました。

### ② 検査件数／完成／金額／部局別

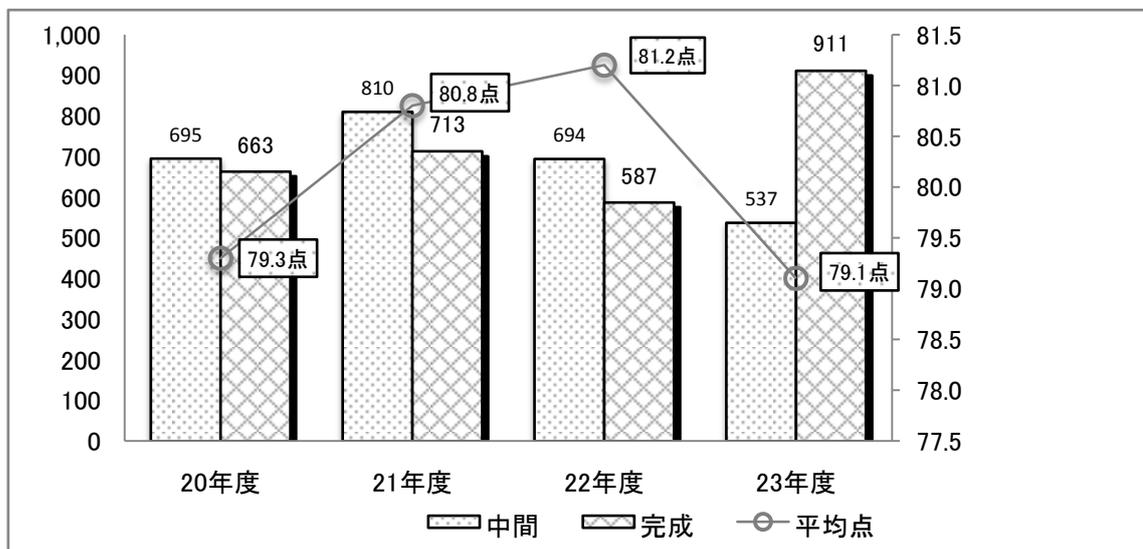


総検査件数 911件

完成検査総額 797億円

◇農林水産部と土木部で件数の約96%を、金額で約92%を占めています。

### ③ 検査件数／平均点／推移



◇完成検査件数は対前年度比約155%、中間検査件数は約77%となっています。  
 ◇工事成績の平均点（考査有の908件で除した数値）は、対前年度比2.1ポイント低くなりました。

### 3 中間検査の実施と工事成績／専門検査員

#### ① 検査件数／平均点／中間検査実施率

◇完成検査は考査を行った工事を対象とする

	件数	合計点	平均点	中間検査実施率	備考
検査全体	1,445				
■ 中間検査	537			59.1%	※1
■ 完成検査	908	71,812	79.1	56.7%	※2
中間検査無	393	30,572	77.8		43.3%
中間検査有	515	41,240	80.1		56.7%
H23 □ 低入札工事	290	23,561	81.2	90.3%	※2
中間検査無	28	2,219	79.3		9.7%
中間検査有	262	21,342	81.5		90.3%
□ 非低入札工事	618	48,251	78.1	40.9%	※2
中間検査無	365	28,353	77.7		59.1%
中間検査有	253	19,898	78.6		40.9%

※1 見掛中間検査実施率：完成検査件数と中間検査件数の単純比率

※2 実質中間検査実施率：完成検査件数と中間検査を一回以上受検した完成検査件数の比率

※ 備考欄の「%」は中間検査”無”と中間検査”有”の割合を示す

◇平成23年度の専門検査員による全検査件数は1,445件（考査無し3件を除く）でした。

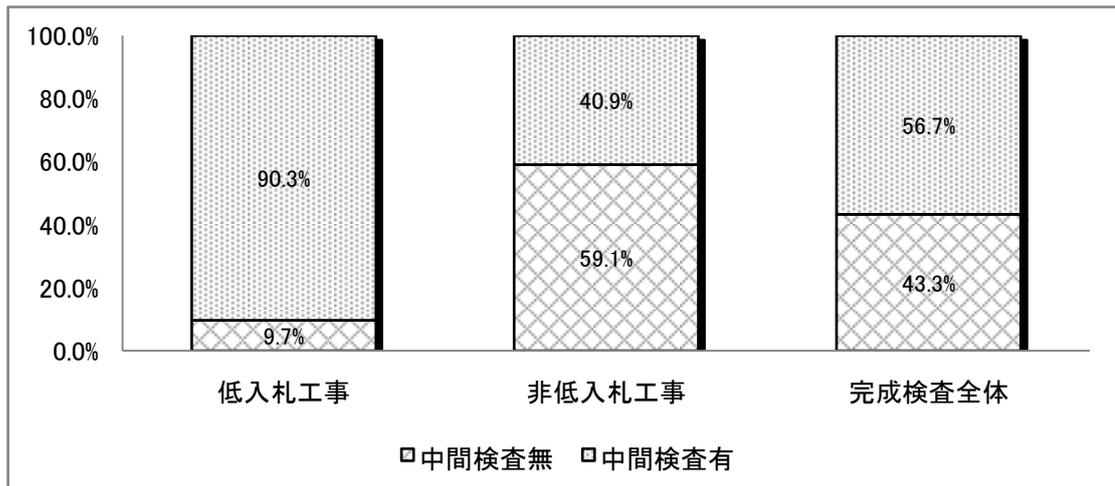
◇中間検査は537件で対前年度比約77%、完成検査は908件でした。

◇完成検査のうち、中間検査を一回以上受検した工事の割合は約57%、低入札工事では約90%となっています。

◇工事成績の平均点は、完成検査全体で79.1点（考査有の908件で除した数値）、低入札工事81.2点、非低入札工事で78.1点となっており、全体的に前年度と比べ低い傾向にあります。

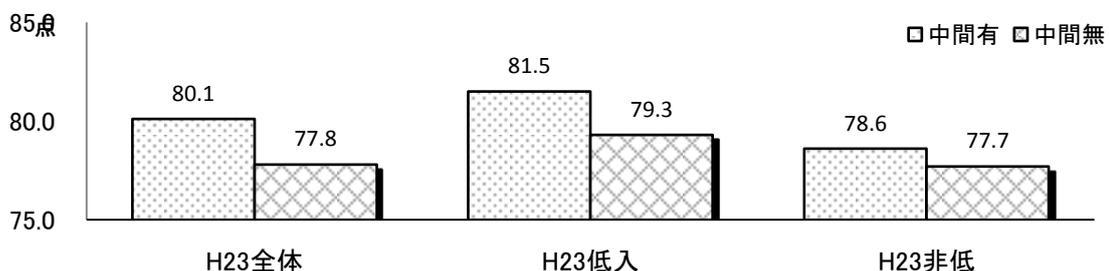
◇低入札工事と非低入札工事の平均点を比較すると、低入札工事の方が高くなっています。

H23年度 [中間検査実施率の比較]



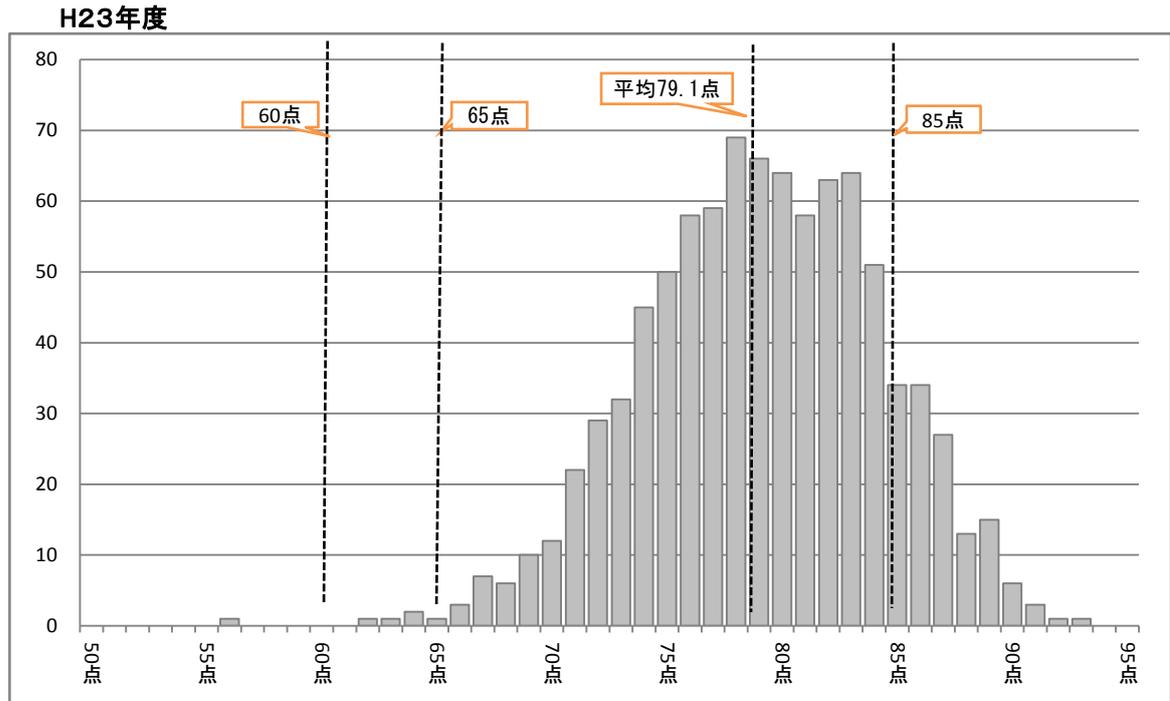
◇平成23年度の完成検査で中間検査を一回以上受検した工事は約57%、うち低入札工事では約90%でした。

[工事成績比較 (平均点)]



## ② 工事成績分布

〔工事成績の分布〕



◇平成23年度における完成検査総数908件（考査無しの3件を除く）の工事成績平均点は79.1点（考査有の908件で乗した数値）でした。

### 4 平成23年度検査結果と今後の目標

前年度に比較し、完成検査件数が約55%増加し、中間検査件数が約23%減少した理由として、東日本大震災に伴うがれき処理、緊急応急工事及び災害復旧工事の大幅な増加によるもので、中間検査を実施する間もなく完成に至った、または中間検査に馴染まない工事が多かったことによるものです。

工事成績平均点が専門検査員検査で前年度比2.1ポイント下回りましたが、その要因としては、がれき処理や緊急応急工事において、工事成績評定上、出来形、品質及び出来ばえが評定できず加点されなかったことに起因するものです。

また、非低入札工事が低入札工事に比較して3.1ポイント下回った理由として、がれき処理や緊急応急工事の発注形態として随意契約によるところが多く、そのデータが非低入札に分類されたことによるものです。

専門検査員による完成検査における中間検査実施率が56.7%となり前年度より32%と大きく下回っていますが、通常工事に限った場合の中間検査実施率は85.9%となり前年度並みの数値となっています。

今後はこれまで以上に、建設工事の品質確保を図る施策を推し進めるとともに、安全で高品質な公共施設提供のため、適正な検査に努める。

そのためにも、工事施工段階での確認や指導が重要であることから中間検査を促進し、効率的な完成検査を実施するとともに、客観性、公平性を意識した工事成績の評定に努めることとしています。

平成24年度の数値目標としては、実質中間検査実施率90%以上、品質の低下が懸念される低入札工事においては実質中間検査実施率100%を目指し取り組むこととしています。